

質問書に対する回答

件名) 常磐自動車道 恋瀬川橋はく落対策工事

No.	質問箇所	質問事項	回答
1	設計図 P.176/192	材料表に記載されている「発生材質量」は、撤去コンクリート重量と思われます。受領した建設時設計図書では既設伸縮装置重量の詳細がわからないため、既設伸縮装置重量を上下線・橋台(橋脚)別にご教示ください。	設計図 P.176/192材料表に記載の「コンクリート撤去量」は、既設コンクリートの撤去に係わる数量となりますが、「発生材質量」は特記仕様書22-4-4(1)に記載の既設の伸縮装置及びコンクリートの撤去に係わる重量の合計となります。既設伸縮装置の重量は、上記から算出願います。
2	設計図 P.176/192	既設伸縮装置延長に対し新たに設置する伸縮装置延長が短いため、既設伸縮装置は壁高欄等の手前で切断するものと考えます。この隣接部における、既設伸縮装置と新たに設置する伸縮装置の取り合いについて詳細図をご提示ください。	既設の伸縮装置の撤去、設置の施工延長は設計図 P.176/192のとおりお考えください。
3	設計図 P.176/192	伸縮装置の撤去深さ130mm以深に部材がある場合、130mm以下の部位は残置となります。この残置される既設伸縮装置と新たに設置する伸縮装置との取り合いについて詳細図をご提示ください。	設計図 P.176/192に記載の伸縮量は、その取り合いを考慮した上での選定としています。
4	設計図 P.176/192	上記質問において、詳細図のご提示がない場合、既設伸縮装置と新たに設置する伸縮装置隣接部における処置に関する費用は、協議の対象と考えてよろしいでしょうか。	特記仕様書22-4-1 事前調査に記載の通り、現地調査の結果等により条件変更該当する場合は、別途協議の対象となります。
5	設計図 P.28/192	“a”部の詳細図(右上、左下)および“b”部の詳細図(中段右、左下)において、それぞれの図面の整合が取れていないと思われます。”a””b”それぞれどちらの図面が正しいかご教示ください。	昇降梯子詳細図、及び検査路詳細図は補修部位や補修面を示した図であり、“a”部及び“b”部詳細図は詳細な工事箇所及び寸法を示した図としてお考えください。
6	全般	各橋梁において、既設の立入防止柵の撤去・復旧が必要と認められた場合、既設の立入防止柵の撤去・復旧は協議項目と考えてよろしいでしょうか。	その通りお考えください。
7	全般	各橋梁施工箇所まで工事車両が進入できると考えてよろしいでしょうか。	その通りお考えください。